

まま雪の下においても、充分越冬することが分りました。

要は、植えた後はそのままの状態、生育、開花、越冬と管理に心掛ければ、翌春の植えかえには、球根は約2～3倍にふえ、小豆粒の大きさになっています。

以上、要点をまとめると

- (イ) 水を切らさない。
- (ロ) 日光にあて、風通しをよくする。
- (ハ) 濃厚肥料を与えぬこと。

等に気を付けて栽培すれば、立派に花をつけ、又、球根も殖えて行きます。

51年1月25日

1 生育概要

2月	1月	10~11月	8月	7~8月	7月	6月	5月	4月	4月	3月	2~3月	月	
中~下	下	下~上	中~下	下~上	上~中	上~下	中~下	中~下	上~中	上~下	(下旬~上旬)	旬	
鉢を掘り出して選球する。	鉢ごと土中に埋める。乾燥を嫌う。零下三~四度まで耐える。	葉は黄変し、休眠期に入る。	新球肥大。根は長く伸びる。ランナー二~三本つく。	開花期	花蕾がみえだす。	葉四~五枚になる。	地下茎伸びはじめる。花芽できはじめ(葉六~七枚分化)	葉三~四枚になる。花茎伸長はじまる(葉四~五枚分化)	芽が地上部に伸びだす。(根盛に伸びる)	芽の下から太い根が二~三本でる。	休眠からさめ芽が伸びだす。(葉三~四枚分化)	植付け	生育状況
<p>乾湿の差がはげしいと球根が腐る。</p> <p>30度以上では弱る寒冷紗やスターレで日中の強光を防ぎ風通しのよい場所におく。</p> <p>花後の管理が悪いとウイルス病がつく。</p> <p>発病が多くなる時期 病害虫の防除のポイントとなる時期</p> <p>充分に日光に当てる。</p> <p>3月いっぱいにはヨシズ、わらなどを被せて防寒する。</p> <p>施肥期</p> <p>花の咲かない発病株はぬきとる。</p>													
												管 理	

嶺南地区の

モリアオガエルについて

池田 鋪七

毎年六月頃の梅雨時には、北は岩手の松尾村白沼、伊豆天城の八丁池、京都の鞍馬山等地域指定の天然記念物として、テレビに新聞に報道され、樹上に産卵するので名高い。

無尾目アカガエル科に属し、青緑色、暗褐色又は、緑地に褐色の斑点等、多様な体色をもち、雄は七、五センチ 雌はやや大きい。

鼓膜が大きく、後肢はやや長い。

県内では、大野荒島岳、今庄夜叉池等が群生地として、確認されております。

私は5年前、敦賀高野部落の淵溝横、椿の枝に白いあぶくの大塊を見つけて、モリアオガエルかと思って 持ちかえり、あみにくるみ、下に受皿をおいて、乾燥しない様に水かけを続けたところ、4日後に泡の中から孵化したおたまじゃくしが、しずくと共に落下し、元気に泳ぎ廻り、池に移すとやがて 尾もなくなり、幼いモリアオガエルとなりました。

嶺南にも群生地は ある筈だと考え、産卵期が一番よく確認されるので、その季節に調査を始めました。

産卵は 池や沼のほとりの樹上に、夏蜜柑大で、乳白色泡状塊の中に行なうと謂れるが私の調査では 山すそが拓けて田になる溜水の上にはり出した枝に多く、又は、地上の田畔にも多く見られました。流水上の樹枝には見られませんでした。

卵塊に直径1.5～3耗大の卵を、200～500個位うみつけ、温度と湿度のよき自然の恩恵のもと やがて、黒い形が盛んに活動を始め、雨水や人工的に与えた水分により、水滴と一緒に落ちて落下し、おたまじゃくしとして生活が始まります。

人畜には無害なので、農夫は別に気にもせずそのまま放置しているが、天敵は何処にもおり、おちくるおたまじゃくしを下に、イモリが待つ盛んに 捕食していました。

敦賀地区も 北陸高速道や、地域開発のため ピンチにさらされた、モリアオガエルを、保護のため、若狭地方の生息地追跡は、別図の如く、諸々に散見せらるが、特に滋賀県境に近い奥麻生の部落全域に、その生息が多く見られ、山合いの湿度の高い 都会から隔離されて汚染されない、この地域こそ 市又は県の天然記念物生息指定地域とすることを 是非、推奨致します。

日本ニッケル敦賀工場長

